

このドキュメントの対象ユーザーは、Oracle VM Manager のユーザーおよび管理者です。ここでは、製品の概要と Oracle VM Manager の使用中に発生する可能性のある問題およびその回避策について説明します。

オラクルでは、Oracle VM Manager のインストールと使用を開始する前に、このドキュメントを参照することを推奨しています。

このドキュメントはリリース後に更新される場合があります。このドキュメントの更新版をチェックしたり、その他の Oracle ドキュメントを参照したりするには、Oracle Technology Network (OTN) の Web サイトでドキュメント・セクションを参照してください。

<http://www.oracle.com/technology/documentation/>

このドキュメントに含まれるトピックは、以下のとおりです。

- [Oracle VM Managerの概要](#)
- [既知の制限とその回避策](#)
- [リリース 2.1.1 へのアップグレード](#)
- [ドキュメント・アクセシビリティ](#)

1 Oracle VM Manager の概要

Oracle VM Manager は、Oracle VM Server を管理するためのサーバー・ベースのユーザー・インタフェースであり、標準 Application Development Framework (ADF) Web アプリケーションです。Oracle VM Manager は、インストール・メディアやテンプレートを使用した仮想マシンの作成など、仮想マシンのライフ・サイクル管理を行います。仮想マシンの電源オン、電源オフ、削除、アップロード、配置、ライブ移行などの機能を提供します。また、ISO ファイル、仮想マシン・テンプレート、および共有仮想ディスクのリソースを効率的に管理します。

2 既知の制限とその回避策

ここでは、このバージョンの Oracle VM Manager における制限事項と、問題を解決するための推奨される回避策について説明します。この項に含まれるトピックは、以下のとおりです。

- [ユーザー・インタフェース言語](#)
- [サーバー登録の重複エラー](#)
- [表示されない新規のサーバー・プール](#)
- [同一であることが必要なサーバー・プール内のサーバー](#)

- 新機能をサポートするためのOracle VM Serverのアップグレード
- サーバー・プール・マスターのステータスがActiveになる前にタスクを実行できない
- サーバー・プール間ではサポートされないロード・バランシング
- Oracle VM Serverイメージから仮想マシンを作成できない
- ハードウェア仮想化ゲストのハードウェア要件
- 仮想マシン・イメージをアップロードできない
- Oracle VM Managerの再インストール後におけるログイン失敗
- 仮想マシン・コンソールへのアクセス
- 仮想マシンにおけるハードディスクの制限
- 仮想マシンにおけるネットワーク・カードの制限
- PXEを介して起動する場合に必要な仮想ネットワーク・インタフェース（VIF）
- PXEを介してハードウェア仮想化マシン（HVM）を起動する場合に必要な完全仮想化（ioemu）タイプ
- メモリーの削減をサポートするために必要な再起動
- サーバー・プール間ではサポートされないライブ移行

2.1 ユーザー・インタフェース言語

現在リリースされている Oracle VM Manager でサポートされる言語は、英語のみです。

2.2 サーバー登録の重複エラー

Oracle VM Manager では、Oracle VM Server は 2 回以上登録できません。登録の重複によって、エラーが発生し Oracle VM Server の管理が不安定になる場合があります。

2.3 表示されない新規のサーバー・プール

サーバー・プールを問題なく作成しても、キャッシュの更新が遅れることで、キャッシュはその時点のデータを取得せず、そのため新しく作成されたサーバー・プールは選択に表示されません。

回避策：Oracle VM Managerをログアウトしてから、再度ログインします。新規のサーバー・プールが表示されます。

また、その他の新しいサーバーやグループ、ユーザーなどにも適用されます。

2.4 同一であることが必要なサーバー・プール内のサーバー

単一のサーバー・プールにおけるサーバーの型およびモデル番号は同一である必要があります。同一でないと、ライブ移行などの操作が失敗する場合があります。

2.5 新機能をサポートするための Oracle VM Server のアップグレード

リリース 2.1.1 の新機能を使用するために、仮想マシン・サーバー、ユーティリティ・サーバー、サーバー・プール・マスターで Oracle VM Server をリリース 2.1.1 にアップグレードすることが推奨されます。

2.6 サーバー・プール・マスターのステータスが Active になる前にタスクを実行できない

Oracle VM Agent を再起動した後、サーバー・プール・マスターのステータスが Active になるまではどのタスクも実行できません。

2.7 サーバー・プール間ではサポートされないロード・バランシング

サーバー・プール・マスターが提供するものは、同一のサーバー・プール内での Oracle VM Server 間におけるロード・バランシングのみです。Oracle VM Manager は、サーバー・プール間における、仮想マシンの配置、クローン、テンプレートとしての保存などのロード・バランシング操作をサポートしません。

たとえば、仮想マシンを別のサーバー・プールへ配置する場合、Oracle VM Manager は、ターゲットのサーバー・プールのデフォルト・パーティション上にこれを配置します。そのパーティションで使用可能なストレージが十分でない場合、操作は失敗し、Oracle VM Manager がサーバー・プール内の別のストレージ・パーティションに配置を試みることはありません。

2.8 Oracle VM Server イメージから仮想マシンを作成できない

仮想マシン・イメージ内に Oracle VM Server イメージを含む仮想マシンを作成することはサポートされていません。Oracle VM Server がインストールされた仮想マシンは作成できません。

2.9 ハードウェア仮想化ゲストのハードウェア要件

ハードウェア仮想化ゲストを作成するには、Intel-VT（コード名 Vanderpool）CPU、または AMD-V（コード名 Pacifica）CPU が必要になります。サポートされるハードウェア一覧については、『Oracle VM Server インストール・ガイド』を参照してください。

2.10 仮想マシン・イメージをアップロードできない

既存の仮想マシン・イメージをアップロードする際、Oracle VM Manager は構成ファイルを認識せず、仮想マシン・イメージはアップロードされません。

回避策：仮想マシンの構成ファイル名がvm.cfgであることを確認します。

2.11 Oracle VM Manager の再インストール後におけるログイン失敗

既存の Oracle VM Manager パッケージをホスト・コンピュータから手動で削除し、再インストールを行った後に、Oracle VM Manager にログインしようするとログインに失敗します。

回避策：Oracle VM Manager パッケージを手動で削除しないでください。Oracle VM Manager をアンインストールするには、Oracle VM Manager のインストール・スクリプト runInstaller.sh を実行して、Uninstall Oracle VM Manager を選択します。再インストールを実行するには、runInstaller.sh スクリプトを再度実行して、Install Oracle VM Manager オプションを選択します。

2.12 仮想マシン・コンソールへのアクセス

Oracle VM Manager では、仮想マシン（ゲスト）コンソールへリモート・アクセスするために、VNC ブラウザ・プラグインが必要になります。

- Mozilla Firefox を使用して仮想マシンにアクセスする Linux ユーザーは、Oracle VM Manager を実行する前に、クライアント側に ovm-console パッケージをダウンロードしてインストールする必要があります。クライアントの CPU アーキテクチャに従って、適切な ovm-console パッケージ・タイプを選択してください。

表 1 使用可能な ovm-console パッケージ・リスト

CPU	パッケージ	ダウンロード URL
i386	ovm-console-1.0.0-2.i386.rpm	http://oss.oracle.com/oraclevm/manager/RPMS
x86_64	ovm-console-1.0.0-2.x86_64.rpm	http://oss.oracle.com/oraclevm/manager/RPMS

- 非Linuxユーザーが仮想マシン・コンソールにアクセスできるようにするには、<http://oss.oracle.com/oraclevm/manager/RPMS> から `tightvnc-java-1.3.9-3.noarch.rpm` をダウンロードして、Oracle VM Manager のホスト・コンピュータにインストールします。

2.13 仮想マシンにおけるハードディスクの制限

ハードウェア仮想化マシン用に、IDE ディスク（CD-ROM および共有仮想ディスクを含む）は 4 つ、SCSI ディスクは 7 つまで取り付けられます。

準仮想化マシンにおいて、ディスクの変更を反映するには、再起動する必要があります。

2.14 仮想マシンにおけるネットワーク・カードの制限

Oracle VM Manager では、それぞれの仮想マシンに対して 8 つのネットワーク・カードの使用がサポートされています。ただし、仮想マシンをインストール・メディアから作成する場合、システム・ライブラリでは 4 つ以上のネットワーク・カードを追加することはできません。

回避策：仮想マシンを作成してから、Oracle VM Manager で仮想マシンを編集し、最大 5 つの新規のネットワーク・カードを追加します。

2.15 PXE を介して起動する場合に必要な仮想ネットワーク・インタフェース（VIF）

Preboot Execution Environment（PXE）を介して仮想マシンを起動する場合、有効な仮想ネットワーク・インタフェース（VIF）が少なくとも 1 つは存在することを確認します。

2.16 PXE を介してハードウェア仮想化マシン（HVM）を起動する場合に必要な完全仮想化（ioemu）タイプ

PXE を介してハードウェア仮想化マシン（HVM）を起動する場合、VIF のタイプは完全仮想化（ioemu）である必要があります。

2.17 メモリーの削減をサポートするために必要な再起動

仮想マシンのメモリーを削減する場合、変更を反映するには仮想マシンを再起動する必要があります。

2.18 サーバー・プール間でサポートされないライブ移行

Oracle VM Manager では、サーバー・プール間の移行は実行できません。仮想マシンを移行できるのは、同一のサーバー・プール内で、ある仮想マシン・サーバーから別の仮想マシン・サーバーへ移行する場合のみです。また、これら 2 つのサーバーは、同じ CPU アーキテクチャを持つ必要があります。

3 リリース 2.1.1 へのアップグレード

リリース 2.1 から 2.1.1 へのアップグレードについては、『*Oracle VM Manager インストール・ガイド*』を参照してください。

4 ドキュメント・アクセシビリティ

オラクルは、製品、サービス、およびサポート・ドキュメントを障害のあるお客様にも簡単に使用していただくことを目標にしています。そのため、当社のドキュメントには、アシスティブ・テクノロジーを使用するお客様に情報を提供する機能が含まれています。このドキュメントは、HTML形式で提供されており、障害のあるお客様が簡単にアクセスできるためのマークアップが含まれています。アクセシビリティの標準は進化し続けており、オラクルは当社のドキュメントをすべてのお客様が利用できるように、市場をリードする他の技術ベンダーと積極的に関与して技術的な問題に対処しています。詳しくは、Oracle Accessibility ProgramのWebサイト<http://www.oracle.com/accessibility/>を参照してください。

ドキュメント内のサンプル・コードのアクセシビリティ

スクリーン・リーダーは、ドキュメント内のサンプル・コードを常に正しく読み取るとは限りません。コード表記規則では、右中括弧は別の空の行へ記す必要があります。ただし、スクリーン・リーダーによっては、括弧または中括弧のみを含むテキスト行を読み取らない場合があります。

ドキュメント内の外部Webサイトへのリンクのアクセシビリティ

このドキュメントには、オラクルが所有または管理しない他の企業または組織の Web サイトへのリンクが含まれる場合があります。オラクルは、それらの Web サイトのアクセシビリティに関する評価や言及は行いません。

Oracleサポート・サービスへのTTYアクセス

オラクルは、米国内では年中無休で 24 時間、Oracle サポート・サービスへのテキスト電話 (TTY) アクセスを提供しています。TTY サポートへは、800-446-2398 へお電話ください。米国外からは、+1-407-458-2479 へお電話ください。

Oracle VM Manager リリース・ノート、リリース 2.1.1

Copyright © 2008, Oracle. All rights reserved.

このプログラム (ソフトウェアおよびドキュメントを含む) には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

本文書に記載された内容は、予告なく変更されることがあります。本文書内に問題が見つかった場合は、書面にて報告してください。オラクル社およびその関連会社は、本文書に一切間違いがないことを保証するものではありません。これらのプログラムのライセンス契約において明確に許諾されている場合を除いて、いかなる形式、手段 (電子的または機械的)、目的のためにも、これらのプログラムを複製または転用することはできません。

このプログラムがアメリカ政府またはプログラムのライセンスを受け、使用するアメリカ政府の代理人に提供される場合は、以下の注意事項を適用します。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかる目的で使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることはライセンシーの責任となります。万が一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、および Siebel は、米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標です。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、(a) 第三者の製品およびサービスの品質、(b) 購入製品またはサービスに関連する第三者との契約のいかなる条項の履行 (製品またはサービスの提供、保証義務を含む) に関しても責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が

発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。